

八幡カップ 全国シニアバスケットボール交歓大会 帯同報告



日 時:2015年9月20日～23日

帯同チーム:福岡スーパーシニア

那珂川クラブ

帯同者:渡辺裕介 リハビリテーション部副部長

橋浦理香 理学療法士

場 所:山形県酒田市

会 場:酒田市国体記念体育館

酒田市立第三中学校

大会内容

第20回酒田市八幡カップ全国シニア
バスケットボール交歓大会

第12回酒田市八幡カップ全国スーパーシニア
バスケットボール交歓大会

第5回酒田市八幡カップ全国ゴールデンシニア
バスケットボール交歓大会

選手参加者

シニアの部

1976年(昭和51年)4月1日以前に生まれた男子

スーパーシニアの部

1966年(昭和41年)4月1日以前に生まれた男子

ゴールデンシニアの部

1956年(昭和31年)4月1日以前に生まれた男子

1966年(昭和41年)4月1日以前に生まれた女子



1日目(9月21日)

福岡スーパーシニア

1試合目 対 新潟代表

34-24 で勝利！！

序盤で相手のシュートがゴールに嫌われていたのもあり、常に福岡リードの展開でした。

メンバーは、正ガードとセンターが不在なこともあり、セットプレーよりも速攻が主体での得点を重ねました。第4ピリオド、相手に流れが傾きますが、点差を守りきり、勝利！！

2試合目 対 岩手代表

43-29 で勝利！！

常時、福岡が圧倒し、終盤に追い上げられませんが、全員と得点で勝利！！



那珂川クラブ

1試合目 対 秋田代表

63-32で勝利！！

序盤からスリーポイントが気持ちよく決まり、全員で声を出しながら守り、相手のミスを誘うディフェンスからの得点で、徐々に差を広げる展開で勝利！！



2試合目 対 静岡代表

62-31で勝利！！

高身長選手が揃う静岡代表との試合は、ゴール下の凄まじい戦い、お互いのポジション争いが見物でした。序盤、ミドルシュートがよく決まり、リードを見せました。しかし、第2ピリオドより相手の追い上げが始まり、開いたはずの差が、ギリギリまで追いつめられました。後半は、相手も勝負を仕掛け、ディフェンスはオールコートでかなりのプレッシャーをかけられました。しかし、それでも全員で声を掛け合い、執念で守るディフェンスからの速攻や、オフェンスリバウンドからのセカンドブレイク、ここぞという時のスリーポイントでどんどんと差を広げ、見事勝利！！



2日目(9月22日)

本日も2試合あり、結果しだいで明日の出場が決まります。全選手とも披露の蓄積がみられました。今回、スーパーシニアのメンバーは10人、シニアのメンバーは9人。交代メンバーが少ないも、ワンプレー、ワンプレーごとに全力がみられ、ベンチからはげきが飛び交いました。

福岡スーパーシニア

1試合目 対 沖縄代表チーム

32-26 で勝利！！



1試合目、疲労もそうですが、各関節の痛みのある選手もいます。アップの前にテーピングやマッサージ、ストレッチを入念に行いました。スタートは、福岡の3ポイントの連続得点から開始します。そこから一気に突き放そうとしますが、細かいミスが続き、なかなか波に乗ることが出来ません。タイムアウトごとに全員で意見を言い合いながら、足が止まった時の動き、パス回し、エースへのつなげ方を確認していきます。後半、疲労で足が止まる選手、シュートが乱れだす選手もいるなか、動ける選手がカバーをしあいながら相手を少しずつ突き放します。最後は僅差で勝利！



2試合目 対 愛知代表チーム



30-49で惜敗

疲労の蓄積がみられており、体力的にも限界に近い中、スタートします。誰一人、きついからとかの弱音はなく、むしろ、励まし合う姿が多々ありました。全員、万全ではない中、どうディフェンスを行い、オフェンスにつなげていくか…。作戦が伝えられていきました。シュートが入れば全員で喜び、ファウルがあれば全員で反応しました。その姿は、年齢を感じさせず、熱さを感じました。惜しくも敗退してしまいましたが、本当に、出し切ったのいい試合でした。



那珂川クラブ

1試合目 対 埼玉代表チーム

55-34で勝利！！

前半こそ、競り合う形の試合となりましたが、後半、持ち味の「走るバスケット」で流れを自分のものにし、見事に勝利！！



2試合目 対 岡山代表チーム

39-50で敗退。



岡山代表チームは、長身のセンターも存在する、チームで、前日から一目をおいていました。序盤は、取れるはずのリバウンドが相手に奪われ、相手にリードを許す展開となります。粘り強いディフェンスでしたが、センター陣のファールが重なりました。後半、オフェンスではボールマン以外の人の細かいプレーを見直ししつつ、ミスマッチをつくりだして攻める方法を作戦し、全員が意見を言い合いながら、攻めた結果、第3ピリオド終了間際には、同点まで追いつきました。あともう少し！というところまで展開されましたが、その後の相手のデフェンスのプレッシャーは大きなもので、オールコートでダブルチームでしかけてきました。その後、ゴールに結びつけることができず、惜しくも敗退でした。

帯同内容

今回は、もともと手首を負傷していた選手のテーピング、試合前や試合間、試合後に、選手の要望に耳を傾けながら、問題点を探し、試合までの時間等も考慮しながらコンディショニングを行いました。



感想

橋浦

今年の全国シニアバスケットボール交歓大会も、シニア、スーパーシニアともに福岡県代表が出場されました。昨年も、愛媛県で行われた、同大会に帯同させていただきましたが、その際は、ほぼ、先輩について行くだけであり、先輩に頼る面が多かったです。しかし、今回は、初日が、シニア、スーパーシニアの試合が別会場ということもあり、自分ひとりで行動させていただく場面がありました。とても不安で、何かあった時には、自分がなんとかしなければいけないという責任を感じ、改めて、もっと、自分自身の技術、知識の向上が必要であると痛感しました。

渡辺

大会期間中、一人の選手が言いました。「バスケットをすると膝が痛くなる。だけど、バスケットを続けるから全力で鍛え続けることができる。鍛え続けなければ、きっと日常生活であってもまともに動けないんじゃないかな。ストイックと言われるけど、ストイックじゃないとやってられない」と。今回、改めて熱く感じることも多くありました。持って帰って、いろんな方々に伝えたいと思います。

最後に

今回帯同させていただいた選手の皆さんの、それまでの努力や、ひとつのチームワークを築くまでの過程は、計り知れないものであると感じます。そのような中に一員として迎え入れてくださった皆さんに感謝申し上げます。

